

モモの病害虫の発生状況（5月） 調査地点：福島地域9園地、伊達地域9園地

(1) モモせん孔細菌病

春型枝病斑の発生ほ場割合は、5月上旬は平年並、下旬は平年より低い状況でした（図1）。

新梢葉での発生ほ場割合（5月中下旬）は、平年よりやや低い状況でした（図2）。

今後の気象経過によっては、発生が急拡大するおそれがあるため、発病部（枝、葉、果実）のせん除を徹底するとともに、本病の発生が多い場合は仕上げ摘果後、直ちに袋かけを実施しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけましょう。

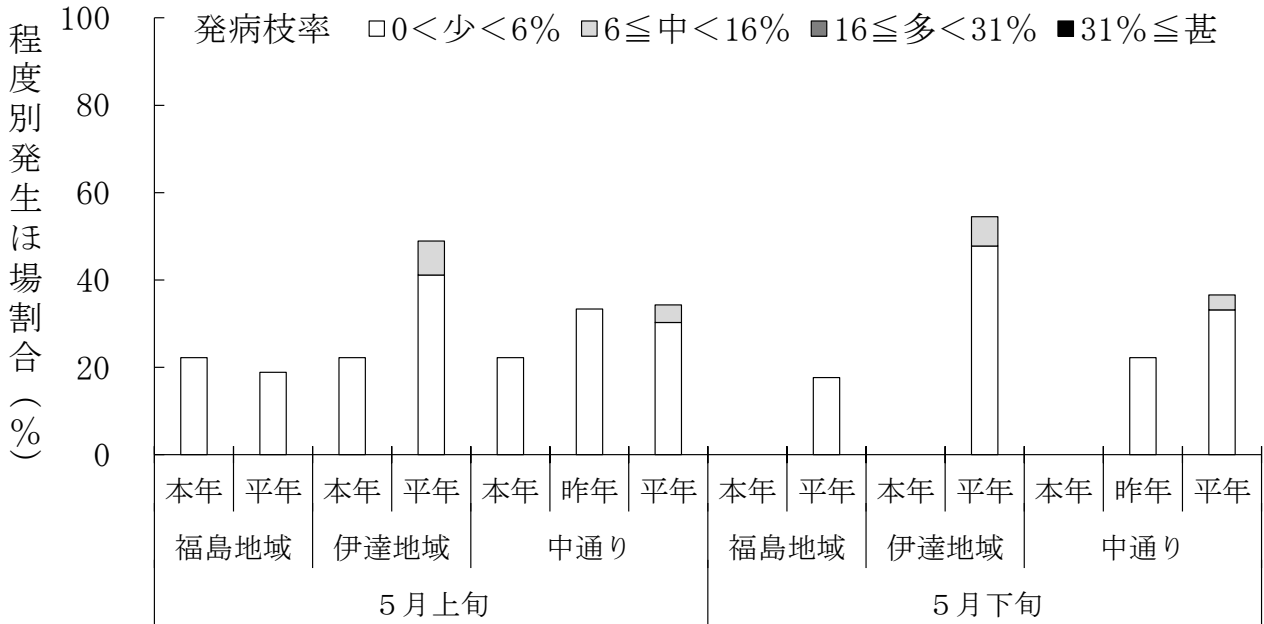


図1 モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生状況（5月上旬、中下旬）

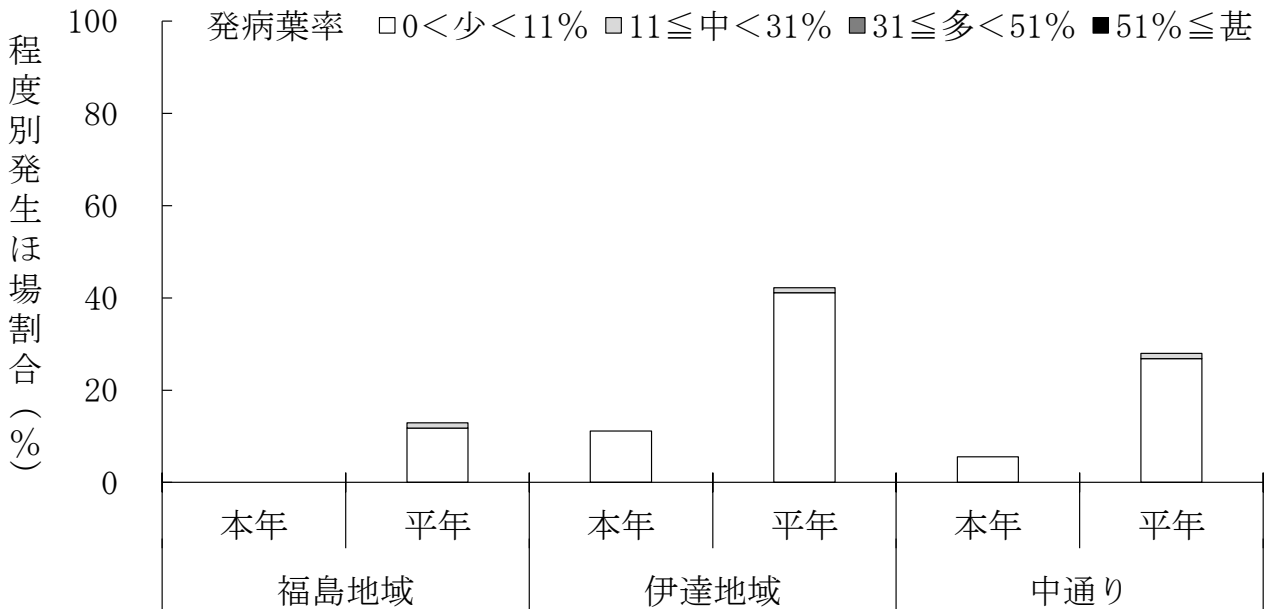


図2 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況（5月中下旬）

(3) モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（図3）。

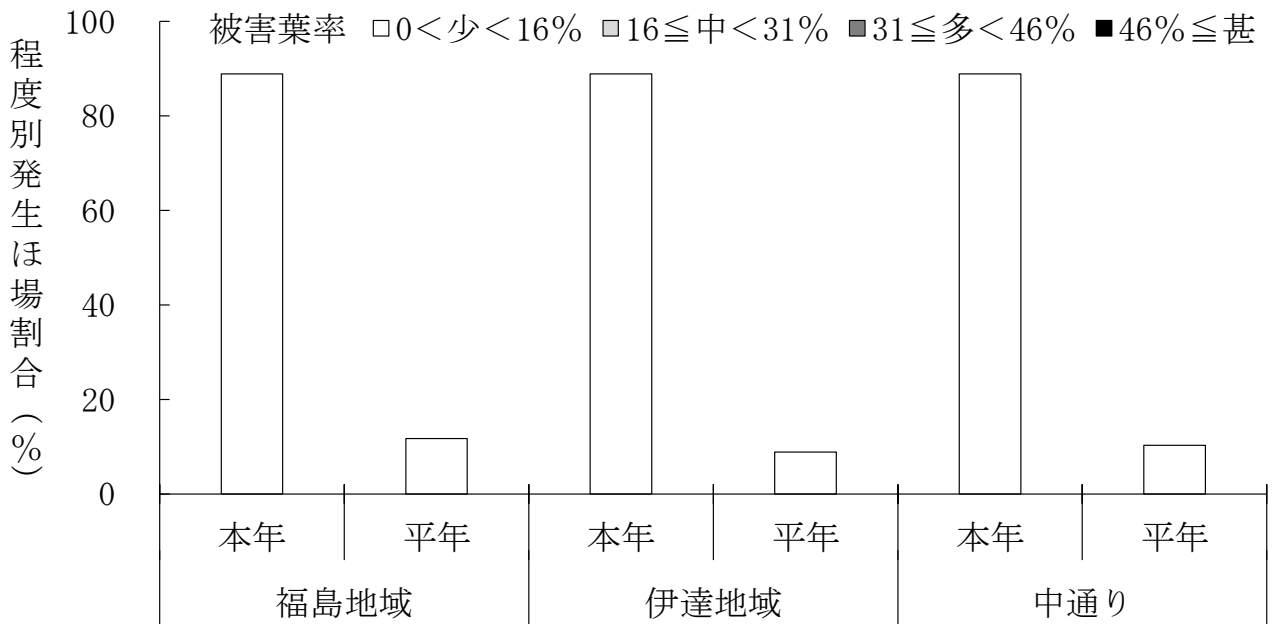


図3 モモハモグリガによる新梢葉の被害状況（5月中下旬）

(4) アブラムシ類

新梢への寄生は、確認されませんでした。

(5) シロカイガラムシ類

5月中下旬の発生ほ場割合は、平年より高く、一部では寄生程度の高いほ場も確認されました（図4）。

寄生程度が高いほ場では、令和5年5月30日付け病害虫発生予察予報第2号の「2 果樹」の「○注意が必要な病害虫」の欄を参照してください。

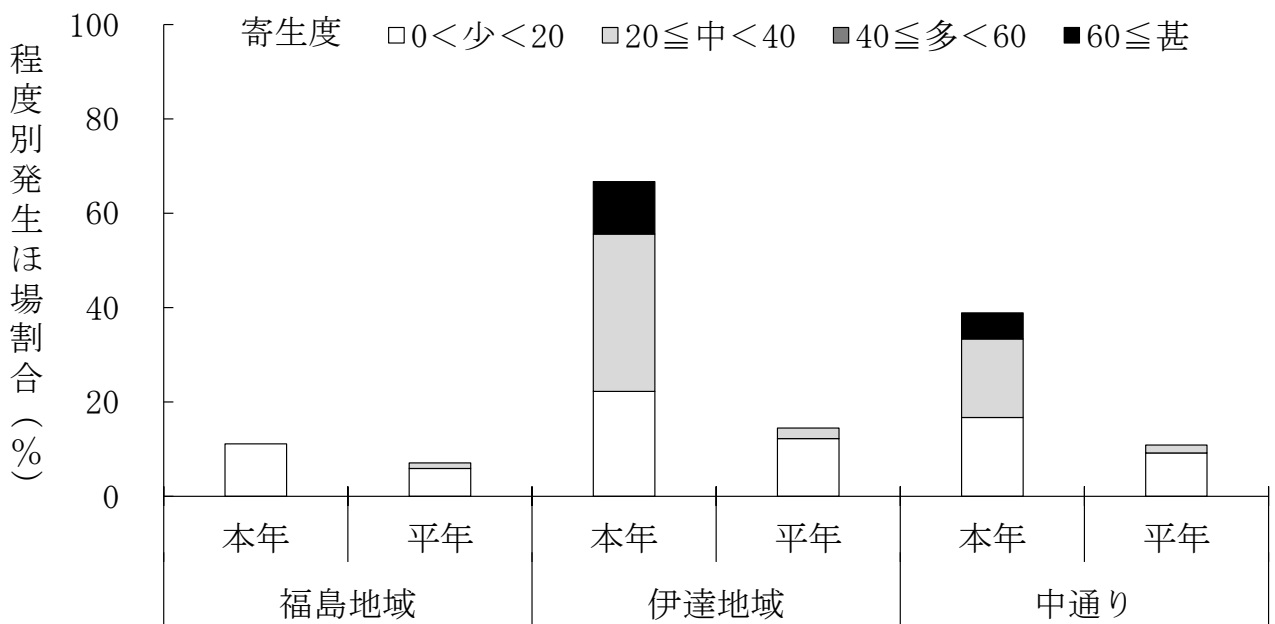


図4 シロカイガラムシ類による側枝の寄生状況（5月中下旬）

(6) ハダニ類

一部のほ場で新梢葉寄生が確認されました（図5）。

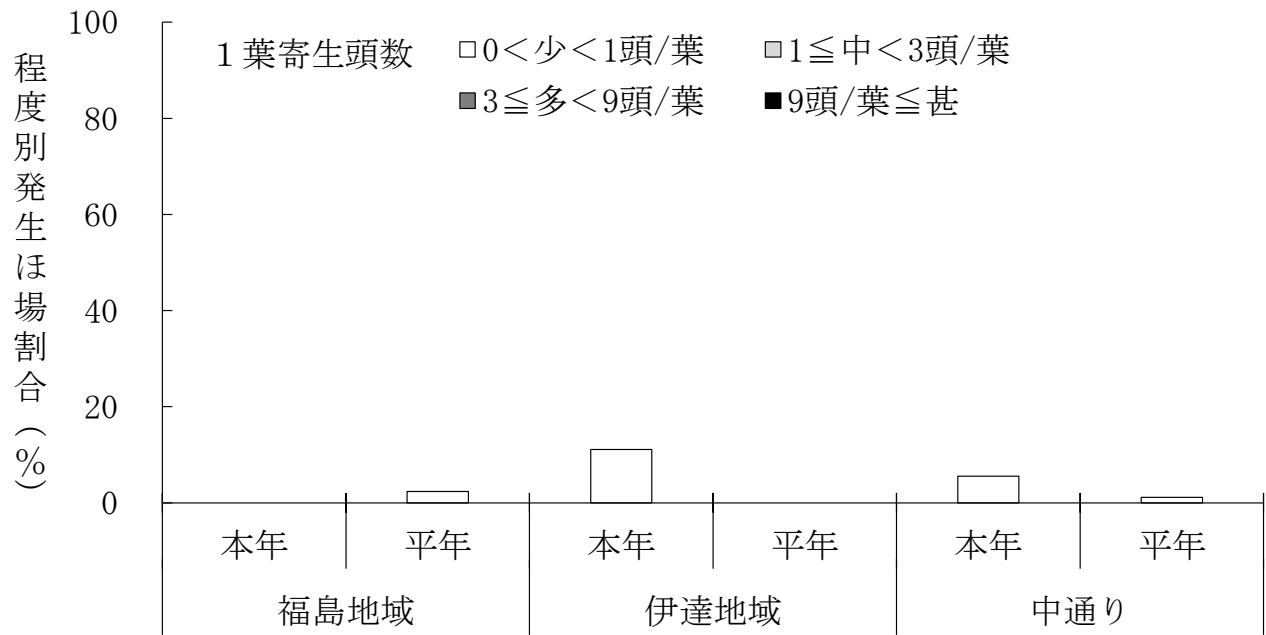


図5 ハダニ類による新梢葉の寄生状況（5月中下旬）

(7) 果樹カメムシ類

モモへの飛来や果実被害は確認されませんでした。

指標植物（サクラ）への飛来は、福島市でクサギカメムシを確認しました。